

平成25年6月18日（火）

○議長（石橋英和君）順番10、6番 辻本君。

〔6番（辻本 勉君）登壇〕

○6番（辻本 勉君）議長のお許しをいただきましたので、これから一般質問を行います。

まず入る前に、先日、木下市長のほうから10年の表彰をいただきまして、本当にありがとうございました。議会へ来まして、もう10年。えらい早いもんやなとつくづく感じています。この10年間、自分が議員として、本当に市民のために何をやってこれたのかなということも考えながら、ちょっと落ちつけば、10年をさかのぼって、いろいろ自分なりに反省もしていけたらなど、このように考えております。

一般質問ですけども、この10年間で平成18年の合併のときですか、3月議会のときに一度しなかったんですけど、それ以外は全て一般質問させていただいております。それについても事務所のほうにファイルしたものがこれぐらいの幅でありますので、それも今後十分、帰りまして見直しながら、できていなかったことについては、また改めて一般質問の中で行政に詰めていきたいなど、このように考えております。

今回は1点についてやらせていただきます。防災情報発信のため、FMはしもとの提携と活用についてであります。

本年4月よりFMはしもとが開局されました。いろんな情報を発信しております。私のよく行っています飲食店でも、常時流されているところがあります。今後、内容がさらに充実していきますと、聴視者が増えることが予想されます。

FMラジオを通して防災情報を提供してい

る市町があります。特に独居老人宅にFMラジオを配布し、災害発生時に備えるとともに安心を与え、さらにお年寄りの心のケアにも役立てています。

例えば本市と災害協定を結んでいる名張市は、市長の方針により、防災行政無線ではなくFM名張を活用し、災害情報等を流し、市民に安全安心を与えています。これは防災協定のときに、私も木下市長と名張のほうに行かせていただきまして、市長のほうからいろいろ話を聞きましたし、地域の自主防災会の研修でも名張のほうに行かせていただいて、いろいろ話を聞かせていただきました。

本市もせっかく立ち上げられたFM放送をいろんな面で活用すべきと考えます。よって、下記の通り当局のお考えをお尋ねいたします。

防災情報発信のため、FMはしもとの連携についてであります。せっかくのこういう放送でありますので、活用しない手はないのかなと思っております。本来、FMを活用するんじゃないしに、防災行政無線という大変大きなお金をかけて設置したものがあんですけども、これについては、15番議員の質問であつたんですけども、本当の意味で市民のために活用されていないのではないのかなというように感じています。本来、この防災行政無線が市民のためにいろんな災害情報を流し、市民に安全安心を与えるものであれば、あえてFMはしもとの連携をしなくてもいいんじゃないかなと思うんですけども、その辺から考えますと、やはり防災行政無線だけでは無理があるのではないかなと、そのように考えていますので、これについてご答弁をいただきたい。

特にFMはしもとが開局される以前から、いろいろ市のほうに先方からアクションがあったのかどうか、その辺についてもお尋ねしたいと思います。

こういう地域コミュニティ放送といえますか、これが立ち上がっているまちといえますのは、ほとんどがその市町と防災協定等を結んでおられるというように聞いております。本市はまだということなので、この防災情報の発信のために、ぜひともFMはしもととの連携をお願いしたいなど、このように考えています。

私はあえてFMはしもを応援するという立場ではないので、市民のために防災情報の発信をやっていたならば、このように考えておりますので、今回の質問であります。

続いて二つ目ですけれども、独居老人に対するFMラジオの配布についてということなので、これは将来的な考え方でいいのかなと思うんですけれども、災害時に、特に気になるというのは、やはり独居老人かなど。それと障害を持っている方、介護されている方、こういう弱者と言われる方の対策をどういうようにしていくかというのが一番の問題ではないかなということ、特に防災行政無線というのは、案外聞き取りにくいといえますか、家の中でお年寄りがおられましても、なかなか何を放送されているのかというのは聞き取りにくいということでもありますので、災害時にはサイレン等が鳴ると思うんですけれども、サイレンだけではやはりだめだということで、個別にそういう弱者の方に災害情報を、やはり的確に、迅速に伝えていくということは大変大事だと思いますので、FMラジオを配布していただければ大変ありがたいかなと思います。

特に防災に私は今回特化していますが、独居老人の、やはり生命の安全といえますか、

の観点からと、もう一点は、やはり独居老人というのは孤独感があります。孤独感の解消。孤独感から精神的な不安定に陥るということがありますので、独居老人といえますか、老人が本当に生き生きと楽しく過ごしていただけるというか、心の安定があって生活していただくというのは大変大事なことでありますので、将来的には、その辺も含めた中でFMラジオといえますかラジオをやはり老人にお渡しして、老人の心の癒しにさせていただくということも大事かなと思いますので、以上2点についての的確な答弁をお願いしたいと思います。

○議長（石橋英和君）6番 辻本君の防災情報発信のためのFMはしもととの連携に関する質問に対する答弁を求めます。

総務部長。

〔総務部長（北山茂樹君）登壇〕

○総務部長（北山茂樹君）議員おただしについてお答えします。

1点目に、防災情報発信のためのFMはしもととの連携についてのご質問ですが、現在、本市の防災情報発信は同報系の防災行政無線、メール配信サービスの防災はしもとやエリアメールで行っています。同報系の防災行政無線は、平成19年度から平成23年度にかけて市内全域で情報提供を行うべく、総工費約3億5,000万円、屋外拡声子局を129箇所を設置しています。

行政情報をはじめ、緊急地震速報や国民保護情報など、市民の生命、身体及び財産にかかわるような重要な情報を全国瞬時警報システム、Jアラートと連動し、情報を発信しています。また、メール配信サービスの防災はしもとは、平成22年から、エリアメールは平成24年から運用しています。今後、防災情報の発信については、FMはしもとと協議してまいりたいと考えています。

次に、独居老人に対するFMラジオの配布についてのご質問にお答えします。

まず、本市と災害協定を結んでいる名張市の状況について紹介させていただきます。名張市は、平成19年から移動系デジタル無線機と同報系防災行政無線の導入の検討を行い、プロポーザル方式の提案の中から、移動式デジタル無線機（平成21年度実施）と、防災ラジオ、これは平成22年度実施でございますけれども、を導入しています。防災ラジオは、FM名張からの電波（通常放送、自動起動信号）を受信することで放送が聞こえる仕組みとなっており、価格は1台1万円程度で、配布先は要援護者及び支援者、民生委員、自治会役員、消防団分団長以上、それから避難施設等でございます。

防災ラジオを運用するための費用は、コミュニティFM連携システム整備工事費、初期投資に約500万円、定時放送に要する利用料、専用の光回線使用料等で、毎月約10万円の費用が必要と聞いています。

名張市が防災ラジオを導入した背景は、既にFM名張が開局しており、同報系の防災行政無線整備と比較した結果、費用面で大きな差があったためと聞いています。

本市は、既に同報系の防災行政無線を防災情報発信の中心手段として整備済みです。今後、さらに防災ラジオを配布するためには、自動起動付の防災ラジオが1台1万円程度で、本市の独居老人の方が約1,500人と考えますと、初期投資費用も合わせて多額の経費が必要であり、配布は困難であると考えます。

○議長（石橋英和君）6番 辻本君、再質問ありますか。

6番 辻本君。

○6番（辻本 勉君）FMはしもとの提携なんですけど、これは先方からのアクションというのはあったんでしょうか。開局前にです

ね。それをご答弁いただけますか。

○議長（石橋英和君）総務部長。

○総務部長（北山茂樹君）FMはしもとの設立の準備段階で、2回ほど協議したことがございます。

○議長（石橋英和君）6番 辻本君。

○6番（辻本 勉君）協議をされたにもかかわらず提携に至らなかったというのは、何か理由があるんでしょうか。費用の発生というか、そういう面も含めまして、防災に特化すれば、私は費用的にはあまりかからないのかなと思うんですけども、その辺も含めましてご答弁いただけますか。

○議長（石橋英和君）総務部長。

○総務部長（北山茂樹君）設立の準備段階での協議の中で、FMはしもとといたしましては、まず和歌山県と災害協定を結んだ後、市と協議したいという旨のことでございました。しかしながら、いまだ和歌山県、それから他のFM局との協定が進んでいないという状況で現在に至ってございます。

○議長（石橋英和君）6番 辻本君。

○6番（辻本 勉君）県との協定ということなんですが、橋本市民のためにという観点から考えていきますと、もう少し積極的に市のほうから、やはり防災に特化した中で話を持っていくべきではないのかなと。FMということなので、結構地域のいろんな情報といいますか、あるんですけども、イベント情報とか観光案内といいますか、その辺まで突っ込んでいきますとあれなんですけど、防災だけ特化して、やはり早く提携を結んでいくことが、市民の安全安心につながるのではないかなと思うんですけども、その辺は当局としてどのように考えておられるのか、答弁いただけますか。

○議長（石橋英和君）総務部長。

○総務部長（北山茂樹君）放送開始後にも、

市といたしましても協議をさせていただいてございます。その中では、やはり防災はしもとメールのFMはしもとホームページへの掲載、これはFMはしもとのほうから要望等々ございました。それから、配信する防災はしもとメールの放送の可能性について、これについては市のほうからいろいろご意見をさせていただいてございます。それから、JアラートのFM局への設置につきましてでも市のほうからも問い合わせをさせていただいているところでございます。

○議長（石橋英和君）6番 辻本君。

○6番（辻本 勉君）Jアラートの問題については、今からやると、大変費用的な問題もかかってこようかなと思うんですけども、設立前であれば、Jアラートの関係も可能であったのかなと思うんですけども、今の段階でJアラートまで行きますと、費用的にかかるのではないかなと思うので、そのことについては、私のほうも要望としては上げにくいかなと思うんですけども、大変厳しい財政状況の中から言いましても、費用がどれぐらい発生するのかというのも、これも大きなあれではないのかなと。名張市は、やはり防災行政無線をしないでFM名張を活用した関係で、費用対効果といいますか、その辺を考えた中で名張は名張の独自のやり方、これはこれでいいのかなと思うんですけども、本市は、やはり市長のご判断で防災行政無線という形で取り組んでいきました。それはそれで大変大事なことであって、市民にとっても安全安心を与えるものとは思いますが、さらに市民に安全安心を与えるのであれば、このFMはしもとを活用した防災情報を流すということは、大変大事ではないかなと思うんです。その辺でいきますと、これだけでは費用のところまで先方と詰めたのかどうか。提携に至らなかった大きな理由というのは何

であるのか、その辺をご答弁いただけますか。

○議長（石橋英和君）総務部長。

○総務部長（北山茂樹君）費用的には、やはり名張市と同様に、初期投資費につきましては、約500万円程度要ると考えてございます。先ほど、Jアラートの関係も議員のほうからお話があったわけですが、開局前であれば設置が可能なんですけども、開局した後といたしますのが、FMはしもとといたしましては、一旦開局しますと、途中で中断するというんですか、休むというんですか、そういうことはできないと。24時間365日放送しなければならぬということになっておりますので、例えばシステムの入れかえとか等々で放送を中止するというようなことはできないということでございます。市といたしましては、できるだけコミュニティの放送局であるFMはしもとをどのように活用していくかというのが非常に重要でございますけども、やはり生活情報、それから防災情報が提供されることによって公共の福祉、それから市民の安全安心に役立つものでなければならぬと考えておりますので、できるだけFMはしもとと連携いたしまして、活用の方向で進めてまいりたいと。今後協議を進めてまいりたいと、かように思っております。

○議長（石橋英和君）6番 辻本君。

○6番（辻本 勉君）ありがとうございます。市民のために考えていくと、やはり前向きに連携して情報を流していくというのが大変大事だと思います。その中で、できるだけ、厳しい財政状況なんで、費用のかからないように考えていくべきかなと思いますので、その辺も含めてきちんと、できるだけ早急に連携し活用していくということで、総務部長の答弁をいただきましたので、よろしく願いしておきたいと思っております。

続いて2番の独居老人に対するFMラジオ

の配布の件なんですけど、これは自動起動式が大変高いといいますか、1万円程度ということなので、これについては難しい部分があるかなと思うんですけども、いろんな観点から、防災の観点からそうだし、福祉の観点から、この部分は大変大事なことはないかなと思うんです。独居老人といいますか、なかなか外に出れないというお年寄りのために、やはりどうしていくんかということを考えていきますと、ラジオというのは大変有効性があるかなと思うんですけども、この辺について何らかの補助金的なものではないんでしょうか。福祉の観点から、ないのかどうか。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（栢谷俊介君）ラジオのFMはしもとにつきまして、福祉の観点からないかというおただしでございますが、今現在、橋本市で65歳以上の方が1万7,208人おまして、独居老人の数は、先ほど総務部長が言われましたように1,500人程度で、約8.5%の方が独居老人ということでございます。本市では、ひとり暮らしの高齢者支援対策といたしまして、高齢者配食サービス、見守り事業や救急通報装置設置をする安全生活支援サービス事業、それから社会福祉協議会でも救急医療情報キット、安心カプセルの配布事業を実施しておりますが、FMはしもとのラジオ放送というのも、独居老人支援ということでは大きな手段であると思います。

先ほど言いましたように、防災の観点でなくお年寄りの心のケアという点のみで考えさせていただきますと、既にほとんどの方が何らかのラジオをお持ちだと思いますので、本市といたしましては、放送局に対しまして、身近な放送局FMはしもとが開始されているという旨を独居老人向けに広報というか宣伝をしていただきたいと思います。それから、橋本市の

老人の心の癒しとなるような放送時間を確保していただくように要望をしていくというようなことを考えております。そういうふうにできたらいいなというふうに考えております。

○議長（石橋英和君）6番 辻本君。

○6番（辻本 勉君）ありがとうございます。

1,470名と独居老人聞いているんですけども、この人たちのためにということで、ラジオは現在持つてはるといふことなんですけども、いろんな情報がやっぱり流れますので、生活情報とか行政情報、議会のことも流れるかなと思うんですけども、そういう意味でいきますと、家でおる、外へ出られないという方の情報収集には大変有意義なものではないかなと、このように考えておりますので、今後ともその辺のことも考慮に入れながら、きちんと提携をしていただいて、市民の安全安心、お年寄りの心のケアといいますか、その辺も含めた中で対応をお願いいたしたいと思っております。終わります。

○議長（石橋英和君）6番 辻本君の一般質問は終わりました。

この際、午後1時まで休憩いたします。

（午前11時48分 休憩）